

グレーダムの取り扱いについて

改良が適当と評価された5河川13基の改良の終了と総括的な取りまとめを踏まえ、グレー（改良に伴う防災機能等への全体的な影響が大きいことから現状維持）と評価されている河川工作物の取り扱いについて、今年度から検討を開始することとした。

このことから、グレーダムの今後の取り扱いについて、具体の検討を別紙に基づき開始する。

河川工作物WGの検討結果の取りまとめ
－影響評価（平成 17 年度～19 年度）－

○影響評価手法

サケ科魚類の遡上・産卵等の生息環境に与える河川工作物の影響を科学的に分析するとともに、河川工作物に改良を加えた場合の防災面、環境面等への全体的な影響を検討し、改良の是非を判定する影響評価手法を考案。（参考）

○影響評価の結果

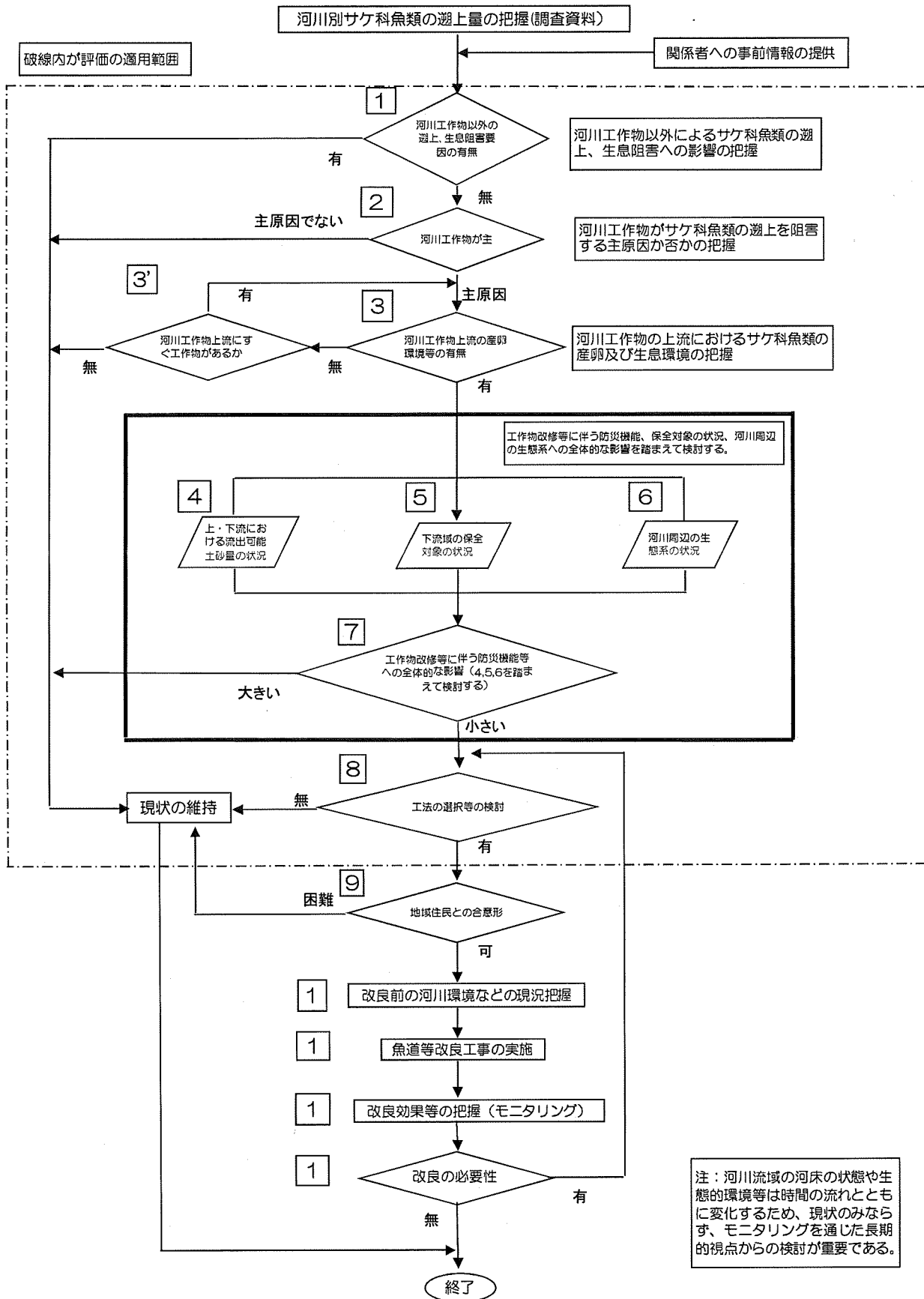
影響評価手法により、平成 17 年度(2005)に 6 河川、平成 18 年度(2006)に 7 河川、平成 19 年度(2007)に 1 河川における 100 基の河川工作物の影響評価を実施した。その結果は以下のとおりである。

影響評価結果の取りまとめは、別紙のとおり。

- i 下記の理由により、改良を加える必要性がない、若しくは改良しても生息環境の改善が見込めないため「現状維持」と評価した河川工作物は 52 基
 - ・改良しなくても河川工作物の落差が低く十分遡上できる。
 - ・遡上不可能な自然な滝が下流に存在する又は下流が酸性の環境下にある。
 - ・改良しても上流に産卵、生息環境がない。
- ii 改良すればサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性があるものの、改良に伴う防災機能等への全体的な影響が大きいため「現状維持」と評価した河川工作物は 35 基
- iii 「改良の検討を行うことが適当」と評価した河川工作物は 13 基

河川工作物がサケ科魚類に与える影響評価フロー

(河川環境・防災面等からの影響評価を含む)



河川工作物影響評価の年度別・河川別・設置者別の検討基数

(平成20年3月末)

検討年度	河川名	森林 管理局	開発局	北海道	斜里町	羅臼町	心化 協会	民間	計
17年度	イワウベツ川	13	7		4		<3>		27 <3>
	ルシャ川			3			<1>		3 <1>
	モセカルベツ川	6		6					12
	オッカバケ川	2		1					3
	ケンネベツ川			8					8
	サシルイ川			2					2
	計	21	7	20	4		<4>		52 <4>
18年度	ホロベツ川		5						5
	羅臼川	11	1	3 (18)		5			20 (18)
	知徒来川	10							10
	オショロッコ川	1							1
	アイドマリ川	2						<1>	2 <1>
	チエンベツ川			2					2
	ショウジ川			1					1
	計	24	6	6 (18)		5		<1>	41 (18) <1>
19年度	ポンプタ川	7							7
合 計		52	13	26 (18)	4	5	<4>	<1>	100 (18) <5>

※ () 書きの基数(外書)は、ワーキンググループでの助言対象構造物である。

※ < > 書きの基数(外書)は、ワーキンググループでの検討枠外である。

河川別の河川工作物影響評価結果

河川名	現状維持		改良が 適当	合計
	改良の必要がない又は 効果の期待ができない	改良に伴う防災機能等 への全体的な影響が大 きい		
ルシャ川	1		2	3
ポンプタ川	7			7
イワウベツ川	14	4	6	24
ホロベツ川	5			5
アイドマリ川		2		2
オショロッコ川		1		1
モセカルベツ川	1	11		12
オッカバケ川	1	2		3
知徒来川	10			10
羅白川	13	6	1	20
ショウジ川		1		1
ケンネベツ川		8		8
チエンベツ川			2	2
サシルイ川			2	2
合計	52	35	13	100

グレーダムの設置者別の基数

河川名	改良に伴う防災機能等への全体的な影響が大きい				
		森林管理局	北海道	斜里町	羅臼町
イワウベツ川	4	3		1	
ア IDMARI川	2	2			
オシヨロツコ川	1	1			
モセカルベツ川	11	6	5		
オッカバケ川	2	2			
羅臼川	6	2	2		2
ショウジ川	1		1		
ケンネベツ川	8		8		
合計	35	16	16	1	2

グレーダムの検討開始の考え方について（案）

グレーダムの検討にあたっては、影響評価でグレーとされている8河川35基について、具体の検討を開始する。

- ① 35基の影響評価結果について、現時点でレビューを行い、今後、改良をすることが適当か検討する。
- ② ①と併行し、①のレビューを待たずに、8河川35基のうち、改良が可能な河川について先行的な改良を行うことを検討する。

①河川工作物影響評価結果においてグレーとされたもの

検討の考え方： WGにおいて評価した結果に基づき、グレーとされている35基について検討を開始する。

検討基数： 35基

対応方針等： グレーとされている河川工作物について、過去の影響評価結果をレビューする。

その中から、改修等に伴う防災機能、保全対象の状況、河川周辺の生態系への全体的な影響からみて、改修可能で改良の必要性が高いものについて具体的な検討を行う。

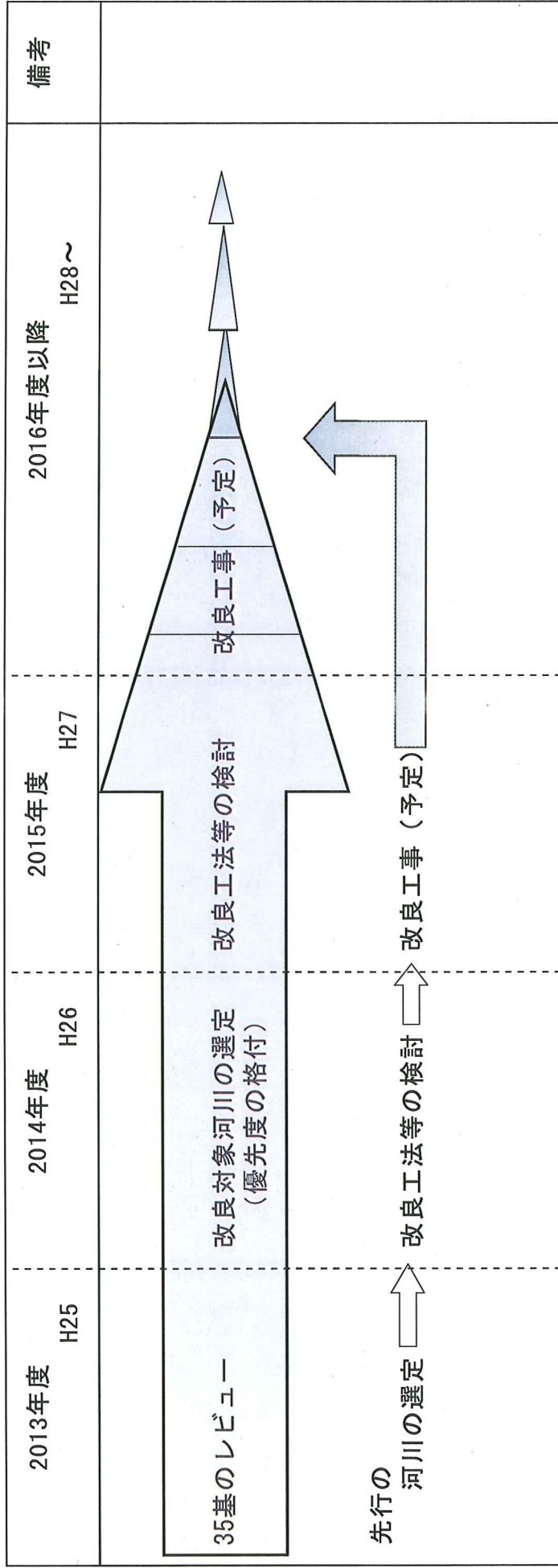
②改良した13基の結果やWT評価結果を踏まえ、同様の工法での検討が可能な河川

検討の考え方： 13基の改良が終了したことから、その改良結果及びWT評価結果を踏まえ、グレーとされている河川工作物のうち、同様の工法により科学的な検証が可能で、改良の必要性の高い河川を抽出し、そのうちの数基について検討を開始する。

検討基数： 未定（河川を限定し、検討を開始する）

対応方針等： 既改良の工法を導入した場合における全体的な影響を評価し、改修可能で改良の必要性が高いものについて具体的な検討を行う。

グレーダム検討のロードマップ(予定)



○グレーダムの検討(対象河川工作物の影響評価結果)

主項目	調査項目/評価項目	イワウベツ川				アイドリ川			オショッコ川
		本流				参考	1(林)	2(林)	1(林)
1. 河川工作物以外の遡上、 生息阻害の有無	滝(落差)	7(林)	3(林)	4(林)	盤ノ川	参考	1(林)	2(林)	1(林)
	ph	阻害なし	阻害なし	阻害なし	追2橋(斜)	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
2. 河川工作物が主原因か	主項目1の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
	主項目2の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
3. 上流の遡上・産卵・生息 環境の有無	河川工作物の落差と越流水深	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
	プール水深と広がり	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
	水面幅(平水時)	遡上可能	遡上可能	遡上可能	どちらともいえない	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能
	水深(平水時)	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
	河床の組成	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
	河川形態	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
	濁水の混入の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	水温	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
	河川内の礫上のスギゴケの有無	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	あり
	湧水	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
4. 上・下流における流出可 能土砂量の状況	河畔林率	大	大	大	小	大	大	大	大
	枝沢の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
5. 下流域の保全対象の状況	滞留土砂量	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
	土砂生産源	中	中	大	中	小	小	小	小
6. 改修に伴う河川周辺生態 系への影響	保全対象の重要性	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
	産卵床の保全性	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい
その他参考事項	生態系の保全性	中	中	中	中	小	小	小	小
	現状維持が適当	中	中	中	中	中	中	中	中
7. 工作物改修等に伴う防災 機能等への全体的な影響	過去に10~15年おきに土石流 が発生。昭和54、56年に激甚 災害を受けている。ダム堆砂 敷には土石流による巨礫が通 り詰まっている。	過去に10~15 年おきに土石 流が発生。昭 和54、56年に 激甚災害を受 けている。	昭和54、56年 に激甚災害を 受けている。 直上流には土 石流による巨 礫が滞留して いる。	上流部には、約80haの地滑り 地があり、地滑り地から出た 大量の土砂が川を埋き止めて 形成したと思われる相泊沼が ある。	上流部には、約80haの地滑り 地があり、地滑り地から出た 大量の土砂が川を埋き止めて 形成したと思われる相泊沼が ある。	上流部には約 170haの地滑り地 がある。	上流部には約 170haの地滑り地 がある。	上流部には約 170haの地滑り地 がある。	
	下流側の工作 物(7.3)の現 状維持と併 せて考えて現 状維持が適 当。	下流側の工作 物(7.3)の現 状維持と併 せて考えて現 状維持が適 当。	下流側の工作 物(7.3)の現 状維持と併 せて考えて現 状維持が適 当。	河川部に河川と接して漁港が 設置されていることから、土砂 流出した場合には漁業補償の同 題が生じる恐れがある。工作 物直下には人家があり、人家付 近では河川幅が極端に閉塞し ていることから、改良により土 砂災害防止の効果を下げるこ とは危険である。産卵床に必 要な小砂利が少なく、以上の ことから当面は現状維持が適 当。	河川部に河川と接して漁港が 設置されていることから、土砂 流出した場合には漁業補償の同 題が生じる恐れがある。工作 物直下には人家があり、人家付 近では河川幅が極端に閉塞し ていることから、改良により土 砂災害防止の効果を下げるこ とは危険である。産卵床に必 要な小砂利が少なく、以上の ことから当面は現状維持が適 当。	河川部に河川と接して漁港が 設置されていることから、土砂 流出した場合には漁業補償の同 題が生じる恐れがある。工作 物直下には人家があり、人家付 近では河川幅が極端に閉塞し ていることから、改良により土 砂災害防止の効果を下げるこ とは危険である。産卵床に必 要な小砂利が少なく、以上の ことから当面は現状維持が適 当。	河川部に河川と接して漁港が 設置されていることから、土砂 流出した場合には漁業補償の同 題が生じる恐れがある。工作 物直下には人家があり、人家付 近では河川幅が極端に閉塞し ていることから、改良により土 砂災害防止の効果を下げるこ とは危険である。産卵床に必 要な小砂利が少なく、以上の ことから当面は現状維持が適 当。	河川部に河川と接して漁港が 設置されていることから、土砂 流出した場合には漁業補償の同 題が生じる恐れがある。工作 物直下には人家があり、人家付 近では河川幅が極端に閉塞し ていることから、改良により土 砂災害防止の効果を下げるこ とは危険である。産卵床に必 要な小砂利が少なく、以上の ことから当面は現状維持が適 当。	

